

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



龍源寺東堂 仁叟寺住職 ～大本山總持寺監院就任～

令和4年

龍源寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4～1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/13 大般若大施食会法要
- 3/18～3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- 4/1～4/3 龍源寺天井絵展
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会併蚕影山例祭法要
- 7/13～7/16 京浜地区盂蘭盆会
- 8月上旬 夏季おてんま
- ※8/10 中元寺例
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- ※10月 檀信徒研修旅行
- ※11月 先々住三回忌、寺族七回忌
- 12月上旬 冬季おてんま
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古
- ※隔週土曜日 華道教室
- ※毎月最終土曜日 ヨガ教室
- ※は、本寺仁叟寺様にて修行

大本山總持寺出版部発行『跳龍』 令和三年十二月号より



就任のご挨拶

本山監院 渡辺 啓司

送秋向寒の候 未曾有のコロナ禍の中、未だ続く諸々困難な現状、平穏な日常生活に戻るのは大変なことと拝察申し上げます。

今般、石附周行紫雲臺猥下より任辞令を拜受いたし、乙川映元監院老師の後任として、十月二十八日付を以て、本山監院職に就かせていただきました。

乙川前監院老師に於かれましては、十年を越える在職の中、故江川辰三大禪師猥下を支えになり、大本山運営にあたり内外共に抜群の手腕を縦横に揮われました。その後を受けての監院職であり、自らの薄徳凡愚かつ古

希越えを省みず、汗顔の極みであります。現今諸般多難の状況下ではありますが、最後の報恩行と心得て、唯々大本山護持の為、只管歩ませていただく所存です。

来る令和六年の太祖大師瑩山禪師七百回大遠忌に向けて、大禪師猥下の御心をしっかりと頂戴し奉り、遠忌局、役寮、大衆、職員、一味同心にて邁進して参ります。全国のご寺院さま並びに関係諸会、諸団体各位に於かれましては、越格のご法愛を懇願申し上げますと共に、変わらぬご指導ご鞭撻を冀いまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

仁叟寺住職 大本山總持寺監院として上山



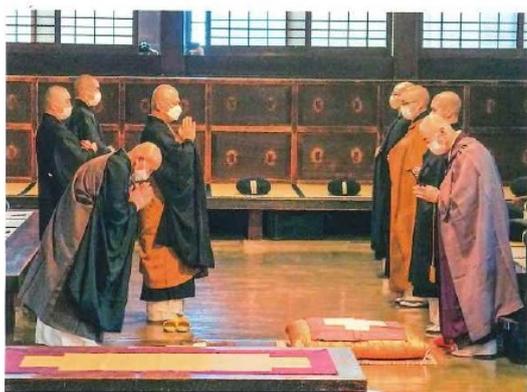
渡辺啓司監院が上山

この度当山東堂が、昨年10月28日に曹洞宗大本山總持寺監院職を石附周行貫首猊下より辞令を拝受し、県内外の御寺院様、総代様方等に見送られ、大本山總持寺に入山しました。監院は、「かんにん」と呼ばれ、大本山總持寺の経営、運営を担う重職です。

ほか宗教法人曹洞宗の役員はじめ、学校法人總持学園の鶴見大学、同大学院、同高等学校、同中学校の理事長及び3つの保育園、母子寮等の社会福祉法人の理事長等にも就任いたしました。大本山總持寺内に監院寮という場所が用意され、本山に常在し、大本山と曹洞宗門の責務を担う事となります。

そのため、任期の間、群馬に戻ることはなかなか出来ませんので、今後の仁叟寺に於いての法務は、弟子で長男である龍源寺住職が、その任に当たることとなります。今後は、住職代行として仁叟寺を、住職として龍源寺を護持いたします。檀信徒の皆様のご葬儀やご法事等の檀務、正月・お盆・春秋彼岸会等の年間行事も、現在と同様につとめさせていただきますので、ご安心ください。

ほか、当山住職の弟である渡辺俊司和尚は、長野県佐久市の信永院住職として精進しており、兄弟が力を合わせ、法燈を御守りいたしますので、檀信徒の皆様方には、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



僧堂掛搭式



香積台での版三下

昭和二十五（一九五〇）年十月十四日生まれ。仁叟寺住職（群馬県高崎市）。群馬県立高崎高等学校、駒澤大学仏教学部禅学科卒業。大本山總持寺安居、大本山永平寺安居。群馬県曹洞宗青年会会長、群馬県總和会会長、関東總和会理事長、群馬県宗務所長、全国宗務所長会監事、吉井町仏教会会長を歴任。

渡辺啓司監院



10月28日修行
されました監
院掛搭式の際
に撮影した大
本山總持寺様
での集合写真



当山二十八世 大澄隆司大和尚 一周忌及新盆



当山二十八世 仁叟三十世
大澄隆司大和尚 一周忌



龍源寺二十八世 仁叟寺三十世重興 渡辺隆司大和尚の一周忌法要が、祥月命日であった11月20日に、仁叟寺ご本寺雙林寺住職 石附正賢老師を御導師として、仁叟寺本堂にて修行されました。コロナ禍対策を十分に施し、御寺院様、総代人世話人始めとする檀信徒各位、親族来賓ほか約140名ほどをお迎えし、莊嚴に一周忌法要をおつとめさせていただきました。当山からは、総代人及び顧問各位が檀信徒代表として参列をいたしました。

また、昨年8月の盂蘭盆会は、二十八世の新盆でした。仁叟寺檀信徒会館欣光閣に盆棚を組み、檀信徒始め縁ある方々が多数見えられ、供養香を薫じていただきました。

一昨年11月20日のご遷化から、逮夜密葬、荼毘式、四十九日忌、百箇日忌、初彼岸会、逮夜本葬、新盆、一周忌と丁寧にご供養を行い、本年は、三回忌となります。また寺族の故渡辺テルも七回忌を迎えます。併せて法要をつとめさせていただきます。予定でございます。



自らを洲とする ～東日本大震災被災地支援～

昨年11月25～26日に掛けて、東日本大震災被災地域である福島県は南相馬市に伺って参りました。今回も恒例となった物故者慰霊法要を南相馬市新祥寺様本堂に於いて修行。同市小高区と同慶寺住職 田中徳雲老師によるご講話も賜り、改めて研修を行う貴重な機会を頂戴いたしました。

また奉仕作業は、新祥寺野田精頭住職と当山住職ほか群馬県曹洞宗青年僧有志計8名で、被災地域である南相馬市小高地区にてつとめさせていただきました。被災地での依頼区域にて、除草と撤去作業等を福島県群馬県両県若手僧侶が力を合わせ行い、皆と共に汗を流しました。



福島県での作業風景

早いもので本年3月11日で、11年が経過いたします。風化させることなく、出来る人が出来る時に出来る事を行う。引き続き、これからも微力ながら、協力をさせていただければと考えております。



田中老師のご講話



龍源寺境内地及び墓地の人災被害について

当山境内地及び墓地への不法投棄を原因とした産業廃棄物流入事件が発生してから既に2年以上が経過いたしました。被災墓地所有者、土地所有者はもとより檀信徒各位には、文書や寺報などで随時経過を報告をしておりますが、コロナ禍もあり、解決に向けた道のりは迅速には進んでおりません。しかしながら、再発防止を目的とした群馬県による工事が、昨年12月に完了。昨夏には何度も現場に足を運び調査をいただきましたE&Dテクノデザイン株式会社による報告書が、科学的見地よりまとめられ、提出されました。諸々、明るい兆しはあり、公判も粛々と進んでおりますが、時間が掛かっております。

今秋には、被告多野造園土木株式会社による当事件の土砂を吉井町多比良地区に投棄し、懲りずに同じように産業廃棄物を埋め、盛り土を行っていたことも情報提供により判明し、行政による指導が入ったと伺っております。高崎市に提出した撤去報告書により、廃棄物総量645立米は処分されましたが、土砂は行政への報告義務はなく、このような結果となったようです。原状回復を約束し、署名捺印した覚書の反故から始まり、予期せぬ係争になった経験等より、今更驚くことではありませんが、残念としか思えない行動です。

昨年12月19日には、代理人を招き第11回目となる被災者説明会も当山本堂に於いて開催いたしました。被災者、檀信徒はじめご尽力いただいております関係各位に深く感謝申し上げます、早期の解決と墓所の復旧の為、引き続きご協力をお願い申し上げます。

完了した当山の再発防止工事



令和四年 回数表

一周忌	令和三年	二十三回忌	平成十二年
三回忌	令和二年	二十七回忌	平成八年
七回忌	平成二十八年	三十三回忌	平成二年
十三回忌	平成二十二年	五十回忌	昭和四十八年
十七回忌	平成十八年	百回忌	大正十二年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家には、封書にて通知が届きます。（但し百回忌を除く）

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

昨年は、当山二十八世仁叟三十世大澄隆司大和尚本葬儀、仁叟寺渡辺啓司住職の大本山總持寺監院就任などなど様々な出来事が続きました。仁叟寺住職の留守を預かる間、歴史と伝統ある当山をしっかりと護持させていただくと同時に、檀信徒はじめお詣りに見えられた皆様が、ほっとする「あんしん やすらぎ」の空間を提供出来ればと、改めて精進をさせていただく所存です。

また龍源寺では、未だ解決に至っておりません境内地及び墓地の人災被災の復興に向け、出来得る限りの尽力をいたします。檀信徒の皆様はじめ縁ある方々のお力添え、ご協力をお願い申し上げます、新年の挨拶に代えさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。合掌

